

ブルーサーマル ～つかまえると幸せになれる風～

この4月、前任の黒澤校長先生のあとを受け、三尻中学校に着任した田沼です。私は、三尻中学校の卒業生ですから、皆さんの先輩にも当たります。卒業生にとって「校歌」はとても大切なものです。校歌を耳にしたり口ずさんだりすれば、何十年も前の、中学校時代の仲間や先生方との楽しかった思い出がよみがえってきます。本校の校歌の歌詞には、「一天瑠璃」「日輪煌」など難しい漢字を使った言葉が並び、独特な響きが特徴です。皆さんが朝の時間に音読をしていた「論語」もそうかもしれませんが、言葉の意味はよく分からなくても、何ども口ずさんでいると不思議なことに心地よくなる感覚があります。さらに、言葉の意味を知れば、映像が目の前に広がってくると思います。「一天瑠璃」とはどのような意味なのでしょう？「一天」は「空全体」、「瑠璃」は「（少し紫がかった）深い青色」のことです（瑠璃色に塗られた画用紙を掲げる）。そうすると「一天瑠璃に三尻野や」というのは「真っ青な空のもと、三尻の平野が広がっている」様子を表現しているのだと思います。映像が少しでも浮かびましたか？

3月に、映画館で映画「ブルーサーマル」を観ました。映画の舞台は、熊谷市妻沼のグライダー場です。ひょんなことから、大学の航空部に入部することになった主人公の「たまき」は、グライダーで初めて空に飛び立った、その瞬間から一面に広がる空の美しさに魅了されます。映画の画面はまさに「一天瑠璃」の世界でした。映画の題名にもなっている「ブルーサーマル」というのは、グライダーの機体をぐっと持ち上げる上昇気流のことなのだそうです。エンジンがついていないグライダーにとって、上昇気流は、つかまえると幸せになれる風でもありました。大事な大会に大学を代表して出場するたまきは、はたしてブルーサーマルをつかまえることができたのか…というお話です。

中学校生活を送る皆さんにとっての「ブルーサーマル」（つかまえると幸せになる風）は何なのでしょう。それは、友達や家族、先生の大切な言葉かもしれません。出会った本や音楽かもしれません。映画の主人公「たまき」がそうであったように、いつも前を向き、素直な心で頑張っている人は、大事な時にこそ、一人一人の「ブルーサーマル」をつかまえることができるのだと思っています。

ここに並んでいる皆さんの頑張っている様子を先生方から聞いています、明るく活発な学年の3年生、3月の修了式での返事が大変すばらしく、最上級生になる自覚を先生方は感じたそうです。人懐っこい学年の2年生、川越での校外学習では、自分たちで決めた計画やルールをしっかりと守る姿に大きな成長を見て取ったそうです。

皆さんは残念ながら参加することができなかった3月の卒業式で、卒業生代表の杉浦瑞季くんは、こんな言葉を皆さんに残しています。「私たちが受け継ぎ、築き上げてきた三尻中学校の伝統を、あなたたちに託します。あなたたちなら、さらに良い三尻中学校を創ってくれると信じています。」

今日は真っ青な空「一天瑠璃」に向かって飛び出す、そんな日です。皆さんの1年間が笑顔にあふれ、有意義なものになることを期待し、令和4年度始業式の式辞とします。